

# 陸前高田市立気仙小学校



撮影：小川重雄

特別教室棟。大屋根に包まれたラーニングセンター。図書室・多目的スペースを中心に様々な教科が連携



地域の方々との対話から生まれた「風のホール」。伝統構法「船外づくり」を継承



切妻が集まる校舎と新しい町並み。広田湾、市街地、箱根山を望む。(2018年12月)

## 復興の丘に町並みをつくる木造の小学校

2011年の東日本大震災で校舎が全壊した気仙小学校は、被災後に校舎を共同で使用してきた旧長部小学校と2013年に統合し、2019年1月に本計画による新校舎に移転した。敷地は、復興事業により今泉地区に造成された高台の最も高い位置（海拔約49m）にあり、復興の進む市街地や陽光きらめく広田湾を望むことができる。津波によって歴史的町並みが根こそぎ流失してしまったこの地域において、新しい学校が伝統をつなぐものでありたいと考え、一塊の巨大な校舎ではなく、切妻屋根が集まる校舎によって、学校そのものが新しい町並みの始まりとなることを目指した。学校や地域の方々との対話を通して設けられた風のホールは、子どもたちが伝統的な太鼓や長唄を練習する場であり、地域のイベントにも活用されている。校舎に沿って東西の市道をつなぐアプローチは、地域住民の散歩道や憩いの場となり、誰もが自由に訪れる「町としての学校」を実現している。中庭を囲む校舎配置は、大階段や図書室、多目的スペース、地域開放される体育館、風のホールを常に一体的に感じられる包摂的な構成となっている。全体の構造は木造であり、集成材壁柱、JIS耐力壁、告示による木造耐火構造といった先進的な構法を採用しつつ、適材適所で鉄骨やコンクリートを用いるハイブリッド構造として、新たな木造校舎のフェーズを提示している。